

実習関連参考文献(2010年度版)

4. 児童福祉

<児童福祉論>

- ・庄司洋子、松原康雄、山縣文治編『これからの社会福祉3 家族・児童福祉』有斐閣、2002年
- ・『新社会福祉士養成講座第15巻 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規出版、2009年
- ・『社会福祉学習双書第4巻 児童福祉論』全国社会福祉協議会、2009年

<ソーシャルワーク 実践>

- ・山縣文治監修／児童相談所を考える会編著『児童相談所で出会った子どもたち』ミネルヴァ書房、1998年、369.4/J48j
- ・ボブ・ホルマン『社会的共同親と養護児童——イギリス・マンチェスターの児童福祉実践 明石ライブラリー31』明石書店、2001年
- ・藤岡淳子『非行少年の加害と被害—非行心理臨床の現場から』誠信書房、2001年、368.7/F65h
- ・長谷川真人、神戸賢次、小川英彦編著『子どもの援助と子育て支援』ミネルヴァ書房、2001年、369.4/Ka21k
- ・柏女霊峰編著『児童虐待とソーシャルワーク実践』ミネルヴァ書房、2001年、369.4/Ka7mi
- ・山縣文治監修／子どもの相談システムを考える会編著『子どもを支える相談ネットワーク—協働する学校と福祉の挑戦—』ミネルヴァ書房、2001年、371.4/Y22k
- ・菅原哲男『家族の再生—ファミリーソーシャルワーカーの仕事—』言叢社、2004年、369.4/Su28k
- ・柏女霊峰編『市町村発子ども家庭福祉—その制度と実践—』ミネルヴァ書房、2005年、369.4/Ka77s
- ・小木曾宏『現場に生きる 子ども支援・家族支援：ケース・アプローチの実際と活用』生活書院、2007年
- ・須藤八千代『母子寮と母子生活支援施設のあいだ——女性と子どもを支援するソーシャルワーク実践——』明石書店、2007年
- ・加藤曜子他『子どもを守る地域ネットワーク—活動実践ハンドブック—』中央法規出版、2008年、369.4/Ka86k
- ・衣斐哲臣『子ども相談・資源活用のワザ—児童福祉と家族支援のための心理臨床』金剛出版、2008年
- ・日本社会事業大学/藤岡孝志編集『これからの子ども家庭ソーシャルワーカー—スペシャリスト養成の実践』ミネルヴァ書房、2010年

<施設ケア>

- ・アルバート・E・トリーシュマン、ジェームズ・K・ウィテカー、ラリー・K・ブレンドロー／西澤哲訳『生活の中の治療—子どもと暮らすチャイルド・ケアワーカーのために—』中央法規出版、1992年、378/Tr5s
- ・新澤誠治『私の園は子育てセンター 共に育て、共に育つ保育』小学館、1995年、376.1/Sh69w
- ・平湯真人編『施設で暮らす子どもたち』明石書店、1997年、369.4/K48k
- ・小林英義『児童自立支援施設とは何か』教育史料出版会、1999年、327.8/Ko12j
- ・松原康雄『母子生活支援施設—ファミリーサポートの拠点』エイデル研究所、1999年、

369. 4/Ma73b

- ・浅倉恵一、峰島厚編『「子どもの権利条約」時代の児童福祉② 子どもの福祉と施設養護』ミネルヴァ書房、2000年、369. 4/A70k
- ・田口信一他『母と子の絆—地域子育て支援と母子生活支援施設』三学出版、2004年
- ・全国児童養護施設協議会『児童養護』第35巻第4号、2005年、P/369/Ki21z
- ・近藤政晴他『母と子の絆 II—母子生活支援施設は家族を支援します』三学出版、2007年
- ・木全和巳、吉村譲著『児童養護施設でくらす「発達障害」の子どもたち—理解と支援への手掛かり』福村出版、2010年
- ・伊藤嘉余子『児童養護施設におけるレジデンシャルワーク—施設職員の職場環境とストレス』明石書店、2007年
- ・東京都社会福祉協議会『リービングケア—児童養護施設職員のための自立支援ハンドブック（改訂第4版）』東京都社会福祉協議会、2008年

<児童虐待>

- ・西澤哲『子どもの虐待—子どもと家族への治療的アプローチ』誠信書房、1994年、369. 4/N87k
- ・上野加代子『児童虐待の社会学』世界思想社、1996年
- ・恩寵園の子どもたちを支える会編『養護施設の児童虐待—たちあがった子どもたち—』明石書店、2001年、369. 4/065y
- ・浅井春夫『子ども虐待の福祉学—子どもの権利擁護のためのネットワーク』小学館、2002年、367. 6/A83k
- ・村井美紀、小林英義編著『虐待を受けた子どもへの自立支援—福祉実践からの提言』中央法規出版、2002年、369. 4/Mu41g
- ・岡田隆介編『児童虐待と児童相談所——介入的ケースワークと心のケア——』金剛出版、2002年
- ・上野加代子、小木曾宏、鈴木崇之、野村知二編著『児童虐待時代の福祉臨床学—子ども家庭福祉のフィールドワーク—』明石書店、2002年、369. 4/U45j
- ・ドロタ・イワニエク著／桐野由美子訳『情緒的虐待/ネグレクトを受けた子ども—発見・アセスメント・介入—』明石書店、2003年、367. 6/I95j
- ・上野加代子、野村知二『<児童虐待>の構築—捕獲される家族』世界思想社、2003年
- ・インスー・キム・バーグ、スーザン・ケリー著／桐田弘江、玉真慎子、住谷祐子、安長由起美訳『子ども虐待の解決—専門家のための援助と面接の技法—』金剛出版、2004年、367. 6/B38k
- ・ランディ・バンクロフト、ジェイ・G・シルバーマン著／幾島幸子訳『DVにさらされる子どもたち—加害者としての親が家族機能に及ぼす影響—』金剛出版、2004年、367. 3/B17d
- ・ケヴィン・ブラウン、マーティン・ハーバート著／藪本知二、甲原定房監訳『家族間暴力防止の基礎理論—暴力の連鎖を断ち切るには』明石書店、2004年
- ・才村純『子ども虐待ソーシャルワーク論—制度と実践への考察—』有斐閣、2005年、369. 4/Sa21k
- ・川崎二三彦『児童虐待—現場からの提言』岩波新書、2006年、367.6/Ka97j
- ・アンドリュー・ターネル、スージー・エセックス著／井上薫、井上直美監訳／板倉賛事訳『児童虐待を認めない親への対応—リゾリュションズ・アプローチによる家族の再統合』明石書店、2008年
- ・ボビー・ケンディング、クララ・ローリー著／内田江里、谷口美喜訳『虐待を経験した家族が癒される家シダーハウス—児童虐待治療プログラム—』星和書店、2005年、

367.6/Ke42g

- ・藤岡孝志著『愛着臨床と子ども虐待』ミネルヴァ書房、2008年

<その他>

- ・佐伯胖『「学ぶ」ということの意味』岩波書店、1995年、371.4/Sa14m
- ・田中理絵『家族崩壊と子どものステイグマ』九州大学出版会、2004年
- ・和泉広恵『里親とは何か：家族する時代の社会学』勁草書房、2007年